

東京学芸大ヒューマンライ ブラリー2023 報告書

2023年12月2日（土）開催

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2023 実行委員会

代表 | 岡 智之（国際交流／留学生センター）

目次

はじめに.....	2
ちらし.....	3
「本」のタイトル、あらすじ一覧.....	4
当日プログラム	6
当日の写真.....	8
準備と当日までの活動.....	11
当日スケジュール	11
反省会議.....	12
読者アンケート.....	13
読者の感想文	23
「本」のアンケート.....	28
スタッフのアンケート.....	29

はじめに

東京学芸大学ヒューマンライブラリーも2023年で、8年目になる。今年は土曜日の昼間に対面で、計56名が集い、活気あふれる会となった。今年は新しい「本」が4冊入り、学生スタッフも新しいメンバーが3名入り（うち1年生2名）新鮮感が感じられた。教室のブースでは、「本」と「読者」の熱心なやり取りが行われた。報告書での読者の感想などを読んでいただいても、やはり、対面で直接語り合えることの素晴らしさが、ヒューマンライブラリーのだいご味だと感じた。毎回、運営していくことの大変さは感じるが、このヒューマンライブラリーの大きな意義とやりがいを感じる。皆さんが必要とされる限り、引き続き、ヒューマンライブラリーの開催を続け、発展させていきたいと考える。まずは、10年目指して引き続きのご協力をご理解をお願いしたい。

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2023 実行委員会代表 岡 智之

ちらし

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー

2023

東京学芸大学 explayground ラボ

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティなど、生きている「本」と「読者」
との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に関われた社会の実現を目指すイベントです。本年は
対面開催になります。生きた「本」のタイトル、あらすじは、本ちらし 2, 3 ページにあります。5 冊まで本を借り
られ、30 分ずつお話しできます。下記予約フォームで希望する「本」を予約してください。

日時：12月2日（土）12:30～17:30

場所：東京学芸大学 N 棟（中央4号館）3階教室

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2023 実行委員会（代表：岡 智之）

共催：explayground 多様性ラボ GAIA、後援：小金井市教育委員会、小金井市社

会福祉協議会、協賛：東京学芸大学教職員組合

「本」のタイトル、あらすじ一覧

* 下記の「本」を5冊まで借りられ、30分ずつ対話できます。

作者名	カテゴリー	タイトル	あらすじ
巢内尚子 <NEW>	移民女性支援	移民女性の妊娠、出産	技能実習生の孤立出産など、日本では、移住女性が妊娠・出産をめぐる課題に直面する事態が起きています。今回は、国際社会学とジェンダー研究の視点、さらに現場での移民・難民支援の経験から、日本に暮らす移住女性の妊娠、出産に関連する課題をお話します。あわせて支援者からかねて制度の廃止が求められている外国人技能実習制度とそこにおける移民の就労実態や技能実習生の妊娠・出産関連の課題についてもお話します。
中嶋秀昭 (世界の医療団)	災害対応支援	内戦と震災の被害に遭ったシリア北西部の人々への医療支援	今年の2月6日にトルコ南東部を震源とするマグニチュード7.8の地震が起きました。これにより約1,500万人が被災し、5万人以上の人が亡くなりました。隣接するシリア北西部でも大きな被害が出、被災者の多くは2011年に始まった内戦を逃れた人々です。現在、290万人のこうした人々を含む全人口450万人のうち410万人が支援を必要としています。世界の医療団は被災者に対する診療などを行っており、人々の状況や支援についてお伝えします。
金功熙 <NEW>	在日朝鮮人	変容する在日朝鮮人としての自己認識と他者との関係	在日朝鮮人の両親のもとに生まれた私は、自身も在日朝鮮人であることは自覚していましたが、民族としてのアイデンティティを育む経験はほとんどありませんでした。そんな私が、大学時代にはじめて在日同胞と出会うなかで、自分自身に対する認識、特に「在日朝鮮人としての自分」がどのように変容し、家族・友人との関係がどのように変わっていったのか、またどのような新たな出会いがあったのかについてお話ししたいと思います。
長江春子	中国帰国者2世	日本と中国の狭間に生きて	中国残留日本人孤児の母を持つ宿命に翻弄されてきました。特に中学から大学までの10年間、中国人と日本人という二つのアイデンティティ、言語や文化の壁、貧困、偏見やいじめに苦しみました。一方で多くの方々に助けられました。そうした経験から学んだことも多く、今の生き方につながっています。そして、長年蓋してきた辛い体験でも若い方々の学びにつながればと、近年自伝を自費出版したりHLに参加したりして自己開示しています
ワッカス	在日クルド人	日本のメディアにおけるクルド人	皆さんは、クルド人について知っていますか？ 本日は、クルド人とクルドの歴史と文化について述べた後、なぜクルド人が難民になったのか、そして日本のクルド人の問題について今回は特にメディアにおけるクルド人についてお話しします。
のり <NEW>	LGBT 一人親家庭 不登校	LGBTの一人親、子ども2人は不登校	X ジェンダー・バイセクシャルの私は、子ども達が乳幼児期の頃一人親になりました。子ども達が少し大きくなり、上の子は3年生の途中、下の子は1年生の途中で既存の小学校を完全リタイア。LGBTであることも、学校教育を放棄したことも悩んではいませんが、どちらも少数派ならではの不便さがあります。

りゅーや	LGBT(ゲイ男性)	さまざまな職場でカミングアウトをしてきて感じたこと	これまで6回転職をしてきました。どの職場でもカミングアウトをしてきました。なぜ、わざわざカミングアウトをしたのか？ カミングアウトしてからの周りの反応は？ カミングアウトしやすい職場とそうでない職場の違いとは。どのようなセクシュアリティでも自分らしく生きていける社会や過ごせる職場とはどんなものかを考えるヒントになれば幸いです。
畑野とまと	LGBTQ+	ジェンダーアイデンティティのお話	テレビでは「心の性」などと説明されることがありますが、心の性をみたことありますか？私は見たことがありません。じゃあ、それはいったい何なのか？といったお話です。
ひらり	LGBTQ	トランスジェンダー女性 レズビアン (「T」且つ「L」)の苦悩	「体の性が男性で恋愛対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚も子作りも可能な私。しかし、トランスジェンダー女性「T」且つレズビアン「L」といった複数のマイノリティ性をあわせ持つダブルマイノリティの存在やニーズが世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、生活場面では一人で思い悩むことも多々あります。
及川澄志 (おいかわきよし) <NEW>	聴覚障害	聴覚障害者の世界の一端	日本には約29万人の聴覚障害者が存在しており、その数だけ一人一人の聞こえ方が違います。また、コミュニケーションの手段もまちまちです。ここでは、どんな聞こえなのか？聴覚障害者のコミュニケーションとは？といったお話をさせていただきます。
いくみ	身体障害	障がい者の生活について	両上下肢に重度障害を持って生まれた自分の学生時代から今までの話。小学校、中学校は地元の公立校へ通い、高校は特別支援学校へ進学。特別支援学校を卒業後は一般企業に就職し、現在もフルタイムで就業中。普通校と特別支援学校の違いや普通校を選んだ理由、特別支援学校を選んだ理由、先生方や友達との関係などの学校生活や社会人になって感じたことなど話せればと思います。
小山祐介 (コヤ)	うつ病当事者	うつになったあときと、いまとこれから	システムエンジニアとして勤めていた 24 歳のとき、残業 100 時間以上の超過労働、常駐先のパワハラが引き金となって鬱を発症しました。10 回近く転職、たくさんの人に手を差し伸べてもらってアートやエンタメの活動をしていた結果、実体験を活かした起業の機会をいただくも、挫折。うつ病当事者であり、支援者として障害者グループホームで働きながら気づいたこと、いま自分の中にある葛藤とこれからしていきたいこと、お話しします。
浜田有子	失語症・同名半盲	失語症～ある日、突然に話せない、読めない、書けなくなったら？～	旅行、料理本などの雑誌編集、フリーライターをしてきて校了後のある朝、寝たまま起きられず緊急入院。目が覚めて周りを見渡すと、ひらがな、カタカナが全く読めず、会話も通じない。まるで異国に来たようでした。脳梗塞と診断、そして失語症、同名半盲(半側しか見えない状態の視野欠損)という高次脳機能障害になりました。それからリハビリで言語療法と小学生の国語を一から学びつつ。そんな過去と今の日常をお話しします。

当日プログラム

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー 2023 プログラム

日時：2022年12月2日（土）12時半～17時半（12時15分受付開始）

場所：東京学芸大学 中央4号館（北講義棟：N棟）3階教室

ごあいさつ

本日は、「東京学芸大学ヒューマンライブラリー」にお越しいただきありがとうございます。
ヒューマンライブラリーは、2000年デンマークで開催されて以来、現在までに70カ国以上で開催され、わが国でも全国的に行われている多様性理解のイベントになっています。東京学芸大学では今年8年目になり、14冊の「本」の方を迎えて、開催することになりました。本日は、「生きた本」との対話を心ゆくまでお楽しみください。

主催者一同

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2023 実行委員会（代表：岡 智之）

共催：explayground 多様性ラボ GAIA

後援：小金井市教育委員会、小金井市社会福祉協議会

協賛：東京学芸大学教職員組合

お問い合わせ先：東京学芸大学国際交流／留学生センター 岡 智之（〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1） 電話&Fax: 042-329-7235 / e-mail: okatom@u-gakugei.ac.jp

★ 当日カンパも受け付けております。よろしくお願いたします。

ご利用手順

1. 受付で、お名前と予約（「本」の時間と場所）を確認いただけましたら、予約された時間帯の5分前までに、対話の部屋にお入りになり、席にお座りください。
2. 対話の時間は、30分です。終了5分前にタイムキーパーが連絡いたします。終了時間が来ましたら、それ以上質問などなさらずに、すみやかに終了ください。
3. 対話以外の時間は、N304の読者控室でおくつろぎください。
4. 16時30分からN313で、本の方・読者の方・スタッフの交流会を行います。よろしければご参加ください。
5. 読者アンケートがありますので、アンケートフォームより、「本」へのメッセージなどお書きください。
6. 何か質問等ございましたら、青色のスタッフジャンパーを着た、スタッフに遠慮なくお尋ねください。

利用上のお願い

1. 「本」の方を傷つけるような言動をしないでください。「本」「読者」「スタッフ」に対する迷惑行為が見られた場合、退場していただく場合があります。
2. 主催者並びに「本」及び同席者に無断で、写真撮影や録画、録音はしないでください。
3. 「本」の方の個人情報を許可なく、ネットや印刷物にして公開しないでください。
4. 「本」の方の身体的・精神的都合で閲覧中に貸し出し中止になることもあります。

5. スタッフ及びメディアが写真撮影や取材に伺うことがあります。写真に映ることや取材を避けたいという方は受付（又はその場）でお申し出ください。

ヒューマンライブラリー2023 タイムスケジュール

教室 / 机番号	第1回 12:45- 13:15	第2回 13:30- 14:00	第3回 14:15- 14:45	第4回 15:00- 15:30	第5回 15:45- 16:15	交流会 16:30- 17:30
N310/311	長江春子	長江春子	長江春子	—	長江春子	金功熙, 長江春子 浜田有子, ひらり 畑野とまと, 小山祐介 りゅ〜や, 及川澄志 ワッカス, 中嶋秀昭 いくみ, のり
N312	中嶋秀昭	中嶋秀昭	中嶋秀昭	中嶋秀昭	—	
図書室	金功熙	浜田有子	金功熙	浜田有子	金功熙	
情報演習室	—	—	(及川澄志)	及川澄志	及川澄志	
多目的室	巢内尚子	巢内尚子	いくみ	巢内尚子	いくみ	
N313①	のり	ひらり	のり	ひらり	のり	
N313②	りゅ〜や	畑野とまと	りゅ〜や	畑野とまと	りゅ〜や	
N313③	小山祐介	ワッカス	小山祐介	小山祐介	ワッカス	
N313④	ワッカス	—	長谷川留理華	長谷川留理華	長谷川留理華	

*長谷川ルリカさんは事情によりキャンセルとなりました。

* 会場配置図 (北講義棟3階)



*

当日の写真



小山祐介さん (N313)



りゅ～やさん (N313)



のりさん (N313)
畑野とまとさん (N313)



ワッカスさん (N313)
中嶋秀昭さん (N312)





金功熙さん (図書室)



浜田有子さん (図書室)



及川澄志さん (情報演習室)



長江春子さん (N310/311)



巢内尚子さん (多目的室)



いくみさん (多目的室)



↑ 全体交流会 (N313)

全体写真↓



準備と当日までの活動

- ・7月19日(水)昼休み 実行委員会準備会 N313

スタッフの参加： 岡智之、君和田真澄、蘇施源、江郷

日程と開催の決定、「本」の選定

- ・8~9月 本との打合せ、後援団体（小金井市教育委員会・社会福祉協議会）、協賛団体（大学教職員組合）の決定など

- ・第1回実行委員会：2023年10月25日(水)昼休み N313

参加者： 岡 智之、小宮澄夏、君和田真澄、蘇施源、彭越、江口典子（下線オンライン）、初参加：花田（A国語3）、藤田（多文化1）、中野（多文化2）

本の担当決め、当日スケジュール、宣伝方法などについて話し合う。

- ・10/30(月) Microsoft FormsWEB 申し込みを開始。学芸大学ホームページ、学芸ポータル、留学生ML、異文化間教育学会MLなどで宣伝。
- ・11/29(水) 昼休み N313 第2回実行委員会 当日のスケジュール、役割分担の打ち合わせ

当日スケジュール

- ・11時半 スタッフ集合（N棟3階）打ち合わせ、会場準備（張り紙、受付準備、会場机配置など）、案内板設置、受付シュミレーション（名簿で名前チェック、プログラム渡す、場所・時間の確認）
- ・11時30分 日本亭小金井北口店 弁当受け取り（蘇／彭）
- ・12:15-12:45…受付開始(君和田/小宮／中野／花田、彭越)、外案内…N棟前(藤田)、正門前(蘇)、S棟前(劉)
- ・12:45以降…受付、各部屋スタッフ配置、タイムキーパー、グラフィックレコーディング（野月）
- ・16:15- 交流会準備 N313（全員）—11のテーブル作る、「本」と担当スタッフが座る
- 17:30- 最終片付け（全員） 18時までに解散

反省会議

日時：2022年12月6日（水）12:10-12:40 N313

参加者：岡、劉士尊、彭越、蘇シゲン、花田、藤田

1. 参加者数

参加者： 総計 56名 読者 33、本 13、スタッフ 10

・読者内訳：学生 20（学芸大生 17（留学生 8）、他大学学生 3）、他大学教職員 2、一般 11

★ 去年に比べると参加者数はだいたい同じ。読者数のうち学芸大生は若干増えた。スタッフの入れ替わりもあり、3名新しいスタッフが入った。今後新しいスタッフももっと入れたい。

2. 日程、スケジュールについて

- ・今回は土曜日開催になったが、日曜日と比べても人数は変わらなかった。
- ・やはりこの時期寒いので、受付は教室内（N304かN313）にした方がいいかも。

3. 「本」の設定について

- ・今回は、新しい本が4冊開拓できた。久しぶりに来た本もあり、毎年本の入れ替わりは必要である。
- ・新しい本と事前に司書とZOOMで打ち合わせ、リハーサルができた。（のりさん、金さん）

4. 広報・宣伝について

・学内ポータルや学会のMLからも来ていたが、やはり、先生・知人の紹介というのが大きいと思う。口コミが重要である。小金井市報で来た人は2人程度。

・

5. 当日の運営について

- ・準備…会場案内の時、手持ちの案内板が必要だった。
- ・受付…「本」と「読者」と区別するため、「本」の受付も作ったらよかったのでは。
- ・各教室・セッションでの問題…スタッフが入っていないブースもあった。
- ・交流会…17時半終了がちょっと伸びて最終的に18時ごろになった。

「本」の名札があった方がよい。交代の時間があってもよかったのでは。

7. 今後の予定、課題

- ・報告書の作成…読者アンケートの集計、スタッフの感想文12月中ー1月中には完成。
- ・春学期にはオンラインのミニヒューマンライブラリーもあっていいのでは。

読者アンケート

ヒューマンライブラリー全体の感想

- ・ 時間的に1冊しか読むことができなかつたんですが、非常に貴重な経験をいただいたと思います。実際の本を読むのではなく、知識や経験を持っている方々の話を直接聞けて、ヒューマンライブラリーはとても素晴らしいと思います。
- ・ 色々な方の話を伺えて本当に楽しく、あっという間に時間が過ぎました。今までただ生活しているだけでは出会わなかつた方との出会いの場を作ってくださいありがとうございます。
- ・ 甲斐のある活動！いろいろ勉強になりました。世界の隅々の人たちの生活を了解できます。
- ・ 日常生活の中では出会えない方の話を聞けて楽しかったです。
- ・ とても良い体験になりました。本によって全然アプローチが違って戸惑うこともありましたが、楽しかったです。
- ・ 一度に多くの方の話が聞ける貴重な会でとても良かったです。
- ・ 普段なかなか聞くことのできないお話を聞くことができとても学びになりました。
- ・ ヒューマンライブラリーは非常に興味深かったです。話の内容はより日常生活に関したものであったため、わかりやすかつたと思います。その一方で、色々な問題や議論について考えてみる機会にもなりました。
- ・ 実際に参加する前に私は今日の内容はどうやって行ってるのか、すべきことがあるかどうかをちょっと迷っていましたが、でも、参加した後でこの活動がいいな、本当に役に立つと思います。本物の本ではなくて、書いた人の話を聞いて、感動しました。午後は余事があるから一冊目しか登録でないのは残念ですが本当にありがとうございました。
- ・ 「生きた本」を初めて読みました。偏見を持たれやすい方、行きにくさを抱える方、または一生懸命自由に生きていく方などにいろいろな過去の経験を聞いて、心に響きました。社会から判断されて、マイノリティとか、マジョリティとかに分かれるのは変だと思いました。人間は自分と違って人に恐怖を感じるから、自分に有利な規則とか、社会規範などを作っています。なんの枠を作って、その枠で道具みたいな人間を作るのはずるいんです。人間はもともと違っているから、ありのままの姿で生きるの美しいと思って、やはりお互に理解するのは大切だと思います。
- ・ 今回初めて参加しましたが、普段接する機会がない「本」の方も多く、じっくりお話を聞く素晴らしい機会だと思いました。今回は時間の関係で一冊の本の方から伺いましたが、次回はさまざまな分野の本に巡り会いたいです。
- ・ 初めての参加でしたが、どのお話も当事者ならではの濃密な内容で、心が揺さぶられました。本と違って、対話ができることが素晴らしいと思いました。
- ・ ヒューマンライブラリーを通じて、社会の多様性や異なる立場にいる人々への理解が深まり、参加者としての新たな視点を得られたと思います。今年は本来は数冊の「本」に興味があり、お借りしたかったのですが、結局、一冊の「本」を三回拝読しました。来年、是非、他の「本」を拝読したいと思います。宜しくお願い申し上げます。
- ・ 今回の活動では、小学生の子供を連れた参加者も見られ、幅広い年代の人々がその活動に参加したと実感した。ヒューマンライブラリーは実に現代の社会のニーズに合致する意義ある存在だと思います。そのように多様性に対する関心がある人々、様々なサブカルチャーが共存できる社会を求めている人々がいると、多文化共生社会はいつか我々の目の前に現れると信じています。また、今回は活動の合間でスタッフと話し合っていて、ヒューマンライブラリーへの興味が一層強くなりました。来年もスタッフになってみたいと思います。

- ・ 様々な本役の方々のお話を、一日中聞かせて頂く貴重な機会です。非常に有意義な実りのある1日だった。最後の交流会も話していない本役の方とじっくり話す時間が取れたので良かった。また、当日話が聞けるのが5人という限りがあるので、最後にひとりずつ自己紹介して頂いたのがどんな方かわかり良かったと思う。全体的に一番感じたのは、話し手の持ち時間が短く30分以内に話と質問全ては難しいと感じる。実際、話し手がじっくり話をして聞き手に伝わるのには30分は必要で、その後に15分くらいの相互の会話時間があるのが自然だと思う。話し手の方々も話し足りない感覚があるのではと感じた。その場で話せない分は後の交流会でお話くださいとの事だったが、実際は交流会では1人しかお話できないのと、選んだ本以外の方と話したい気持ちもあるのでそれは難しいと思った。今まで参加したヒューマンライブラリでは最短時間だったので、今回は改善を期待したい。
- ・ このような素晴らしい人々のお話を聞くチャンスがあまりなかったので、他人の悩み、生き方など聞いて普通のひとと大きく違うことでとても勉強になりました。普通ではないからこそ、彼らには特別な魅力がある。お話を聞くだけで元気をたくさんもらいました。今後の鼓動にもつながるくらい、人生を頑張らなきゃいけないと改めて感じました。ありがとうございました。
- ・ いろんな属性の方がいて、豊かな会だったと思います。
- ・ それぞれが伝えたい思いの大きさに圧倒されました。直接会って読むことで、その本の人となりも分かるので安心感がありました。知らない事実がたくさんあって、同じカテゴリーの本でも全く考え方が異なったりしているのがおもしろかったです。
- ・ 今回が初めての参加だった。普通の講演会のイメージが強く、ゲストの方が聴衆に対して自分の経験などを語るものだと思っていたが、実際は全く違うものだった。ヒューマンライブラリーは、本と読者の関係だからこそ、枠にとらわれない自由で真新しい世界を作り出すことができるのであると実感した。ゲストの体験・考えを一方向的に聞くという会は何度も経験してきたが、少人数で、自分が聞きたいと思ったことをその場で、その時に気軽に聞くことができるということは何てすばらしいことだろうか。

読んだ「本」の名前と感想、「本」へのメッセージをお書きください。

金功熙さんへ

- ・ 金功熙さん、とても貴重な講義ありがとうございました。実際に在日朝鮮人本人の経験や気持ち話が聞けて、感動しました。私はタイ人で日本に留学に来ていますが、まだ日本語が100%分かりません。しかし、金功熙さんの話は分かりやすく、とても勉強になりました。30分の短い時間ですが、貴重な経験が得られました。どうもありがとうございました。
- ・ 金さん、日本の学校で学校生活を送りながら、自身でアイデンティティと向き合い、確立してきた話がとても印象的でした。選択肢によっては、ある意味アイデンティティの揺れがない生活というのもあったかもしれませんが、自ら学ぶことを選択した点に強い意志を感じました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ これまでの経歴をとてとても分かりやすく時系列で話して下さり、イメージがしやすかった。他者と出会って自分の輪郭が分かり視野が広がる（意識）という言葉がとても印象的でした。どんな立場の人にも通ずることだと思いました。
- ・ 在日朝鮮人としてのアイデンティティや日本社会における現在をお聞きして、生じる葛藤や問題の多くを考えさせられる非常に貴重な時間となりました。
- ・ 大学生になって、同じ境遇の人との出会いがあつてからすこしずつ考えが変化していったということがとても印象に残りました。そのご経験が、今の研究にも活かされているとのことで、人との出会いの大切さにも改めて気付かされました。ありがとうございました。

- ・ ご自身が在日3世としてどのように育ち、どういう出会いや心境の変化があって現在に至ったかをわかりやすく、誠実に語って下さり、一人の若者の自分史としてとても興味深い内容でした。金さんの話を通じて、親世代の葛藤なども伝わり、ご両親の話も聞いてみたくくなりました。ヒューマンライブラリーの面白さ、醍醐味を感じました。
- ・ 金さんの後から自分の韓国人としてのアイデンティティを獲得されたお話も興味深く、もっと深く話を聞きたいと思いました。

長江春子さんへ

- ・ 春子先生は親切で優しい先生ですね。日本から中国に帰っても、中国から日本に来て、地元民に悪口をいろいろ言われた。日本で、日米ダブルと日中ダブルの差別待遇は本当にひどい。市役所も無責任な言葉ばかり言って。先生は大卒後、日本語教師として、中国に帰って、学生に大歓迎されて、必要とされた。それから、中日交流、両国の相互理解を進めたく、海外学生を励ましたい。そうですね。日本が起こした戦争は両国にすごく悪い影響を与えた。私たち新時代の人は一生涯懸命にその影響下にいる両国民、特に学生たちを助ける。
- ・ 紙芝居形式のお話は臨場感があってグッときました。中国残留孤児という言葉の意味を深く考えたことがなかったと痛感しました。
- ・ 私も中学時代に辛い経験があり、乗り越えたつもりでも、話そうとすると涙が出そうになります。春子さんも、涙を堪えながら話してくださり、本当にお辛い経験だったのだろうと思いました。日本にも中国にもどちらにも居場所がないことを感じるのは、想像するだけでも辛いです。戦争はその時代の人を苦しめるだけではないということも改めて感じました。教員として生徒に伝えていきたいです。
- ・ 春子さんの話を聞いてみると、すぐブラジル人の平野さんを覚えだしました。同じように、自分がどこの人ですかのような悩みがあるそうです。確かに、人間は社会に認められてほしいです。しかし、何があっても、春子さんが家族のお世話もしながらずっと頑張っているのは非常に重要だと思います。
- ・ 長江春子の「日本と中国の狭間に生きて」の話聞いて、本当に感動しました。長江さんはひどくて長い時期を過ごして、今までは誰より頑張ったなと思いました。私は昔から歴史を通して戦争の残酷を知ったんですけどやはり2000年代の人だから分るといってもそんなに全部理解できませんでした。それでも、実際の話聞いて、今でも世界のどこかでいじめられたとか、歴史の問題も残ったはず。それに対して、解決方法も複雑じゃないかなと思います。でも、長江さんの話意を通して、大事なことは二つあります。一つ目は、戦争をやめろ。もう一つは、自分のままで生きていることです。本日は本当に有難うございました。
- ・ 昔、中国残留孤児のことを聞いたことがあるが、長江さんの話を聞いて、初めて両国の狭間に生きている辛さをしみじみと感じました。人間にとっては生きている環境が重要だと思いました。侵略者の日本人の血が流れるから、当時の中国人から見れば、長江さんが「日本の鬼の子」だと思われたのも当然で、しかし、戦争は長江さんのせいではない。人間は理性ではなく、感情の生き物だと思いました。長江さんは日本に戻った後、仲間はずれとか、誹謗中傷など酷い目にあって、差別されたことを聞いて、「いじめる人は病気で、弱いから、怖いから、もっと弱い人をいじめる」という言葉を思い出して、人間の心の弱さを感じました。しかし彼女は一生懸命頑張って生きてきたことから、人間の強さを感じました。変えられない宿命かもしれないが、生きている意味がきっとどこかにあると思います。
- ・ 長江さんのお話を伺い、自分が今まで見聞きしていた以上の状況であったとわかりました。それは長江さんご自身の経験ではあるものの、それは現在でも同様のことはおこっており、それに対して私たちは行動を起

こすべきだと改めて思いました。まだまだ伺いたいことはたくさんあるので、次回のヒューマンライブラリーでぜひ続きをお聞かせください。

- ・ 途中からお話をうかがいました。以前、中国帰国者2世、3世が半グレ集団になっていった過程を克明に描いた本を読んだことがあり、長江さんの体験も共通点を感じました。ただ、長江さんは自分で必死に困難な状況を乗り越えて、道を切り開いてきたからこそ、今につながっていると感じました。たくさんパワーをいただきました。
- ・ 1冊目に読んだ「本」の作者は長江春子様でした。「小春のあしあと」という本と出会ってから、いつか著者の長江春子様とお会いできることを願っていました。先日、漸く、貴校のヒューマンライブラリー（2023）で長江春子様とお会いでき、私にとって願いがかなった瞬間であり、大変嬉しかったです。著者と直接対話することで、彼女の本や経験に対する理解が一層深まり、感動や共感が一層強まったと思います。私は中国残留日本人孤児の二世です。10代の時から、山口百恵、荒木由美子の青春ドラマの影響で日本が大好きになり、母と一緒に日本に帰国後も自分の肌で日本という国を感じ、更に好きになりました。豊かな自然、綺麗な街並み、人々は真面目で勤勉、礼儀正しい、秩序、時間を守る、そして、おもてなしの心、ボランティア精神、サービス精神が旺盛という日本人の特性を肌で感じておりました。私は日本に帰国した時に、既に二十歳を過ぎており、義務教育を受けることができず、日本語教室に9ヶ月しか通わなかったもので、その後、働きながら、日本語を覚えるのに、とても大変でした。そのため、私は長い間、ずっと自分の日本語能力に対するコンプレックスを抱えていました。2016年に中国帰国者の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部の研修を受け、改めて日本語の能力不足を痛感しました。もし、幼少期か、10代の時に、もっと早く日本に帰ってきたら、自分も日本人並みに話せるかもしれません。また、日本の学校文化では、学生の気持ちに寄り添う先生方をとても優しく感じました。そのため、私は長い間、ずっと早く日本に帰国できなかったことに対して大変悔しく思っていました。しかし、語り部研修を通じ、多くの日本に帰国した二世、三世の人々が自身の日本での学校経験に苦しむことがあったことを知ることで、特に「小春のあしあと」という本と出会ってから、私の考えを大きく覆されてしまいました。書籍名：小春のあしあと：日本と中国の間に生まれた子の不器用な旅路 著者名：長江春子 中国残留日本人孤児の母と中国人の父に生まれた著者が一家で日本に移住した中学生以降の半生を綴ります。筆者が中高校生時代に受けた壮絶ないじめ、偏見、差別は理不尽でとても苦しかったです。私は読んでいううち、何度も涙が止まらなくなり、胸がとても苦しくなりました。私は「自分が著者と似ていた特徴が多かったのも、もし、10代の時に帰国したら、著者のように大変苦しくなったのではないか。著者は他人ではなく、もう一人の「自分」なのだ」と気づいたのです。こうして、最愛の日本に深刻な問題を抱えていることに気づいたのです。日本における多様性の理念と、実際の社会の受け入れは、まだギャップがあると感じました。
- ・ 4冊目の「本」は長江さんでした。中国帰国者2世である長江さんは13歳に日本に戻ってから、生活が一変しました。それから、中国でも日本でも周りのいじめばかりうけました。中学生から大卒まで、何の関係もない、むしろ被害者とも言える長江さんがあの忌々しい戦争とつながって、責任を背負わされました。傷つけられながらも偏見の山に乗り越えていく長江さんの姿に感服しました。ですが、このような偏見の山今に残っています。日本語教師の友達は学校で年上の同僚に「日本の鬼」と呼ばれたこともある。あの戦争で中日両国の人民がひどく傷つけられ、その傷跡は今でも残っています。あのような戦争を再発しないように、みんなが傷跡を覚えるわけで、決して両国の人民をお互いに恨み合うためではないと思います。そのような無駄な恨みが消えるように、日本語教師として、多文化共生を宣伝し、頑張りたいと思います。

中嶋秀昭さんへ

- ・ 日常生活に追われ、仕事、子育て、家のこと、と、目の前のことにいっぱいいっぱいイライラしがちな自分です。世界には、本当に苦しんでいる方々がいらっしゃることにハッとさせられました。自分にも何かできることを、と思いました。心理的ケア、世界に向けて役立てるといいな、と思います。貴重なお話を伺い、世界が広がりました。ありがとうございました。
- ・ 中嶋さんの NGO の話を聞いて感動しました。自分も日本の NGO とトルコ・シリア地震地に行って、困っている人や親がなくなった子供を見て非常に悲しかったです。地震が起きてからの最初の一か月は様々の NGO にお世話になりました。多分助けただけられなかった場合は被害がもっと多くなるのに相違ありません。自分もそういう仕事をやるチャンスがあればやってみたいと思っています。
- ・ 国際 NGO の方のお話を聞きました。難民の様子がわかって良かったです。
- ・ 中嶋さんのお話から、「尊厳」について考えさせられました。人間をマジョリティ、マイノリティに分けると、それはパワーゲームにも似て、マジョリティはマイノリティの尊厳を忘れてしまうけれど人にはすべからず尊厳のあることを改めて気付かされたように思います。

ワッカスさんへ

- ・ バッカスさん、昨日から準難民制度が施行されたことを知りました。どうして「準」などと付けるのかという疑問もありますが、今までなかなか進まなかった難民受け入れがこの制度によって進み、ウクライナの方だけでなくクルドの人々も日本で暮らしやすくなることを期待します。バックカスさんが日本におけるクルド人の権利拡大のために様々な活動をしてきたことが分かりました。今度、東京のバックカスさんのレストランにクルド料理を食べに行きたいです。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 自分のインタビューが掲載された新聞を渡され、自分からは語り出されないのが戸惑いました。質問をすることで具体的な話をしてもらえましたが、しなければどうなっていたのか…
- ・ ワッカスさんは在日クルド人としてメディアへの露出が多く、有名人ということもあり、仮放免などで苦しんでいるクルド人とは違う視点で話をされていました。オープンな感じだったので、こちらからいろいろ質問し、日本文学のクルド語の翻訳を手がけていること、十条のクルド料理店が来年3月で閉店すること、トルコ政府から嫌がらせが続いていることなどをうかがいました。雑談のような雰囲気でした。
- ・ 人目はワッカスさんの話を聞き、クルド人が抱える現状と苦悩を客観的な目線で語って頂き非常に勉強になった。ご自身の人生が掲載されている新聞を持参されたので、その内容についても話を聞きたかった。客観的な事実と共に、ご自身の人生が感じてきた苦労や主観的な想いについて深く知りたかったので、機会があれば話を聞きたいと感じた。
- ・ ワッカスさん、お話を聞かせていただきありがとうございました。国がない・国籍もないという話を聞いてすごく大変だと思いますが、日本だけでなく、マレーシア、インドネシアにもいろいろ活躍できて素晴らしいと思います。クルド人の女性が戦争に参加させると言う話が衝撃的でしたが、すごく悲しかったです。でもみんなが自分を守るためにそれをやったってことがわかったので、偏見的なニュースでの内容を疑ってもいいかと思いました。ありがとうございました。
- ・ ワッカスさんの話では、自分の知識の少なさを反省したり、もっと調べてみたいと思うことが多かったです。のりさんのお話では、いろいろな出来事を前向きに伝えようとしている様子が印象的でした。しかし、前向きに話そうとされているのではなく、自分自身が無意識のうちに苦労されているだろうという偏見

を持ってしまっていたのかもしれないと感じ始めました。偏見や差別をなくすということの難しさを感じました。

りゅーやさんへ

- ・ こちらの話も良く聞いてくださったので、思わず自分語りをして泣いてしまいました。交流会でもそのままお話をもらったのですが、3人の留学生の方も交えて楽しかったです。
- ・ 様々な性の在り方を詳しく教えて頂き、勉強になりました。
- ・ りゅーやさんの話が興味深かったです。ゲイの人は世界中に様々な問題を体験しています。同性婚どころか、いじめられたり、暴力を受けたりなどもあります。ただ、話を聞いてみると、自分と同じ人間です。ただ性的嗜好だけが違います。若者の場合はもっと楽で、かなり普通のことだと考えられていますが、特にお年上の方がゲイに否定しているそうです。従って、政治家も若い人であればあるほど、ゲイの生活は楽になっていくと思いました。
- ・ 一つ目の「本」はりゅーやさんでした。カミングアウトについて色々話してくれました。本当の自分の考えを伝えやすいようにほぼ転職先にカミングアウトしていることにとっても驚きました。中国ではそれはほぼ同僚に話してはいけないことです。その勇気に感心しながら、その考え方に非常に同感しました。別に友達じゃない同僚に自分のプライバシーを言わなくてもいいのに、やはりいつか本当の自分の考えを相手に伝えたい時が来るかもしれません。その時、嘘なく言い出せるように、最初から相手に自分の一部を見せると、私もそう思っています。本当の自分を隠して、ただ相手に合わせて本気ではないことを話すことはつらいとわかります。また、ジェンダーについてみんな話し合うことはただの少数派の生きづらさをわかるだけではなく、その人たちを通じて自分自身を考えることはできるとりゅーやさんがおっしゃいました。それこそその活動の主旨なのではないかと思います。
- ・ りゅうやさんの話を聞いて、LGBTQのリアルと苦悩に触れご自身の人生で感じられてきた想いをじっくりと感じられた貴重な時間だった。穏やかな人柄と柔らかな語り口で話の組み立ても素晴らしいので、すっかり引き込まれ学びの多い充実したセッションだった。読者との対談も、とても真摯にわかりやすく答えて頂き全てが心に響く内容だった。

畑野とまとさんへ

- ・ とまとさんのお話を聞き、新たな団体を作ったり、ホームページを作成されたりと行動力に驚かされました。当事者として自らが状況の打開に向けて動かれる姿がとても印象的でした。また、日本では同じ方向を向いて動いているはずの団体が協働できていないというお話もその通りだと感じました。ありがとうございました。
- ・ とまとさん、お話を聞かせていただきありがとうございました。トランスジェンダーとしてきつとたくさんお悩みがあると思いますが、とまとさんの元気な姿を見て私も元気をもらいました。確かに、将来先生になりたい私にとって子供に自分のアイデンティティを無理やり意識させるのがあまり良くないと思います。子供が自分なりに成長し、自分のアイデンティティを見つけるべき。この課題は個人的だけでなく、社会的な理解も必要だと考えます。難しいと思いますが、将来きつといつかそのような偏見がなくなると信じています。心からありがとうございます。

ひらり〜さんへ

- ・ 研究者としてのひらりさんからジェンダーについて専門知識を聞かせていただきました。特に、同性愛のトランスジェンダーのゲイとレズビアンは初めて聞きました。そこで、自己の中にある固定観念や偏見に気づきました。男性が女性を好むことはい「普通」と言いましたが、それでは反対なのは異常ではないかとひらりに言われ、誰に対しても偏見はないと自分はそう信じていますが、いつのまに偏見のある言い方が身についたのかと自問し、多数派と少数派のような言い方にしようと思います。
- ・ ひらりさんの話を聞き、実は一度聞いた事がある語り手の方だったが今回はまた違う話を聞けたので更に良かった。LGTBQの正しい情報と当事者だからこそ感じるリアルを具体的かつ詳細に渡りわかりやすく伝えて頂きとても勉強になった。LGTBQでも少数派で相手探しが大変だという話が興味深く、次回のテーマにした事も話されていたので是非参加したいと感じた。
- ・ ひらりさんのお話を伺いました。トランスジェンダーでレズビアンという組み合わせは、日常生活でモヤモヤすることも多いだろうなと想像できました。

巢内尚子さんへ

- ・ 在留資格がないまま、臨月を迎えた女性をどのように出産まで支援し、伴奏したかを具体的に教えて下さいました。その粘り強さ、強い思いに圧倒されました。今の技能実習制度が20代の若い女性が妊娠、出産することを全く想定せず、日本の外国人受け入れ制度に（人道的に）欠陥があるということ、外国人の医療通訳などが少ない問題点などもわかりました。自分に何ができることを考えさせられました。
- ・ 移民労働者と妊婦の支援をされている巢内さんの話を聞いて、様々な経験をされていて具体的なご自身が抱えている苦悩や、現状の厳しさについてわかりやすく伝えて頂き、心に響く内容だった。移民や妊婦の方々を支援するまでに至った強い信念と熱い想いが伝わり、今までの人生、今後の活動などもっと話を聞きたかったのが足りなく感じた。

及川澄志さんへ

- ・ 誰にでもマイノリティのところ、マジョリティのところがあるって、名言ですね！共感しました。及川さんが上京されたきっかけ、学生時代のご苦勞の克服話など、もっと伺いたかったです。どうもありがとうございます。
- ・ 音声認識アプリがろう者とのコミュニケーションに非常に役に立つことが知れて良かったです。わたしは書店員で、ろう者の常連のお客さまとの筆談によるやり取りに苦勞しているのですが、アプリを使ってみようと思います。こんなことを言うのはミーハーで恥ずかしいのですが、及川さんがとても格好良く手話の手の動きが綺麗で見とれてしまいました。
- ・ 及川さんにこの前にもお世話になりました。お話はずっと面白いと思います。耳が聞こえないのに、あらゆる手段を使って私たちに自分のことを伝えてくれました。自分が手話が全然わからないのはがっかりに思いました。しかし、及川さんが紹介してくれたアプリは確かに役に立ちますので、ダウンロードしておきます。
- ・ 聴覚障害の及川さんの話を聞いて、聴覚障害当事者のリアル感、実情を聞き今まで自分が無知だった部分がよく理解できた。及川さんの気さくな人柄も印象的でわかりやすく楽しく学ぶことができた。楽しいからこ

そ時間があつという間で、まだまだご自身の苦悩や乗り越えてきた部分についてなど聞きたい事があつたので、次回機会があつた際にじっくり聞いてみたいと感じた。

- ・ 聴覚障害者の方のお話を伺いました。とてもお話が上手で、話に引き込まれました。日々の様子がわかって良かったです。
- ・ 交流会で及川さんがおっしゃった「マイノリティの中のマジョリティ」という言葉にハッとさせられ一番印象に残りました。これまで「マイノリティ」と「マジョリティ」に分けて考えてしまっていたのですが、誰の中にもマイノリティの部分とマジョリティの部分があるのだと気付かされ、マイノリティの問題と言われるものは、誰にでも起こりうることだとわかりました。どの本も、ご自身のマイノリティの部分にフォーカスを当てる、あるいは当てざるを得ないことで見える景色があり、その景色をヒューマンライブラリーで教えてくださったように思います。
- ・ 及川澄志さん一声のない世界を彩る 及川さんとの交流の中、まったく耳の不自由の方だと思いませんでした。もちろん、それを知りながら、私は字を打ったり書いたりして及川さんと交流していました。私は担当者として、はじめて及川さんに会った時に、及川さんは仕事をしていました。そこから感じたものはかなり強いオーラでした。それは多分及川さんは経営者と教員という両方の仕事をしているからだと思いました。しかし私が最も感心したのは、ほとんど聞こえない世界を生きて、その経験を活かして自分と同じような境遇にいる人を支援することです。我々は日常喋ったり、歌ったりする時、この世界にはまったく異なる方法でコミュニケーションをとっている人たちがいること、今まで真剣に考えたことがありませんでした。その中から、私は自分がどれほど恵まれているを知り、これからもできるだけ落ち込まずに頑張っていきたいと思ひます。

いくみさんへ

- ・ 学校生活での楽しかったこと、喜び、苦しみ、お友達とのこと、仕事のことなど、お話頂きありがとうございます。ペーパードライバーの私から見たら、運転免許証を取得して車に乗っていらっしゃるとのこと、心より尊敬いたします。障害がある方は自立への意識が強いということを知り、上から目線にならないように、自分のできることをしたいと思ひます。貴重なお話ありがとうございます。
- ・ 身体障害という当事者の抱える想いやハンディキャップをむしろ強みに変えて生きていらっしゃるという話がとても印象的で感銘を受けました。

のりさんへ

- ・ のりさん、カテゴリーに捉われることで、カテゴリーに分類されない人を攻撃してしまうというお言葉にとても共感しました。のりさんがお子さんに「新しいパートナーができるとしたら、男性と女性どちらが良いとかある？」と聞いた時息子さんが「男とか女とかじゃないでしょ。その人がどんな風に物事を考えて生きてきた人かが大切でしょ。」というようなことを言っていたと聞き、カテゴリーで人を見分けることは楽だけど、大切なのは最初にカテゴリーから人を見るのではなくその人自身の中身だと気付かされました。貴重なお話をありがとうございます。
- ・ ごく普通の方に見えますが、色々なご苦勞を乗り越えていらしたのですね。頑張りに感服いたします。ポジティブさに、勇気を頂きました。ありがとうございます。まだまだお話を伺いたいところでした。明るく経験を語ってくださりありがとうございます。私はフリースクールでアルバイトをしているのですが、生徒たちが、いわゆる教科教育を受けなくても良いのだろうかという葛藤が日々あります。お子さまがフリー

スクールに通われていたということで、その点についてお聞きしたいと思いながら時間がありませんでした。貴重なお話をありがとうございました。

- ・ のりさんの話を聞いて、一番印象的なのは「人間は無意識的にカテゴリーにこだわって、カテゴリーから外れる人に攻撃する」ことです。人間って、他の人に作られた枠に囚われながら生きている生き物だと感じました。「ご主人」って、女性は犬じゃないのに、このような言葉を普通に言っている人に不思議だと昔から思いました。のりさんも同じ考えがあって、「あー、よく考えている人があるんだ」と心から感動しました。ありのままの姿で生きられるには、家族の理解や、家族からの守りが大切だと思いました。そのような家族ができてよかったです。
- ・ のりさん、お話を聞かせていただきありがとうございました。自分のアイデンティティをやっとカミングアウトできて本当素晴らしいと思います。今まで辛い思い出・悩みなど、たくさんあると思いますが、自分らしくのりさんの生き方が本当に元気付けられます。それこそ、とてもかっこいい母親だし、子供もきっとママのことすごいと思っています。ありがとうございました。
- ・ のりさんのお話を聞くと、SNSの時代だからこそ人は昔以上に、世間の声とか規範に縛られてしまっていて、本来の自分を見失っているのではないかと思いました。

小山祐介さんへ

- ・ 小山さん、今、学校現場でも療休の方が増え、私自身も療休明けの方と同じ職場で勤務した経験があります。しかし、何を言ったら傷つけてしまうのかが分からず、腫物に触るようにしか接することが出来ませんでした。小山さんが何でも聞いてくださいと言ってくくださったので、今まで私がうつ病経験者の方に踏み込んで聞けなかったことを質問させていただきました。今日聞いたお話を生かしたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 共感する部分が多くて、とても聞き入ってしまいました。今も悩むところもあるということですが、自分に向き合いながら前に進んでいる姿が印象的でした。お話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- ・ 小山さんが話をする前にまず私たちが何か知りたいですかを聞いてくれました。それは非常に優しく思ったと思います。人生でだれでもうつ病になる恐れがあります。そして、自分の体験を通じて、そういう人に対してどんな行動がいいか、どう反論すれば安全ですかみたいのことを教えてもらってよかったです。しかし、小山さんは今でも完全に直っているとは思ってないのは悲しかったです。
- ・ 小山さんがうつ病になった原因を聞いて、なんか、この社会が変だと思いました。社会常識とか、失敗とか、成功など、人間が作った概念って元気な人間を殺しているのではないだろうか。社会だけではなくて、家族からの叱り、不理解が一番心を傷つけることです。家族からの支持や、他人からの暖かい言葉が心を癒す機能があると感じました。
- ・ 三冊目の本は小山さんでした。二、三年前、ある友達がうつ病になった。その時、うつ病に関してまったく知らなく、どうやって接するか困っていました。今回小山さんの話をいただき、あの時、あまり寄り添いすぎなかったことはよかったですと思いました。うつ病は心理的な病だが、体にも現れることにショックでした。身体と心の二重の不具合と戦っている小山さんにとっても感服しました。特に、「思考より行動」という話に深く同感しました。考えるほど迷い、それより、「とりあえずやる」ことで、未知の領域に挑戦する勇気を得ることができると思います。
- ・ 小山さんお話を聞かせていただきありがとうございました。辛い日々を重ねて乗り越えることできるのが何より小山さんの素晴らしさだと思います。母親との関係が本当に大事とおしゃったのですが、私もそう思いました。自分のことを無条件で受け入れる存在は母しかないと思います。今まで辛い思い出・悩みなど、

たくさんあると思いますが、自分らしくの小山さん生き方が本当に元気付けられます。ありがとうございます。

浜田有子さんへ

- ・ 浜田さん、今回初めて失語症というものを知りました。事故や病気によって、今までできていたことが出来なくなることの不安や憤りなど、自分だったらと考えると自暴自棄になってしまいそうです。また、ご家族のことも話していただきましたが、娘さんも恐らく色々な葛藤をしていたのだろうと勝手ながら慮ってしまいました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 失語症は脳の部分的に損傷を受けた結果、言葉がうまく使えないことだ。動物なんかの言葉が頭に出てくるのに、口から出てこない。生活の中で、誤解されること、悩んでたこといっぱいがある。これに本当に心配してる。浜田先生は今全く治らなさそうですから。
- ・ 失語症について、高次脳機能障害について、言葉は聞いたことがありますが、始めて当事者の方のお話を伺いました。誰がいつなってもおかしくないことだと思います。自分も明日、同じようになるかも、と考えた時、前向きに自分語りができるだろうか。ご苦悩と努力がおりと思います。心より尊敬いたします。

本ヒューマンライブラリーの運営（スタッフの対応、会場の環境など）、その他についてご意見がありましたらお書きください。

- ・ 事前のメールや名簿に書いてあった本を巡る順番が時系列になっていると分かりやすかったと思います。
- ・ スタッフさんが来るのかな、来ないのかなと語り手の方が気にしていらっしゃる場面を何度か見かけました。また、教室がとても寒かったです。
- ・ お疲れ様です。運営は非常に慎重に行われました。
- ・ 最後の交流会も楽しかったです（途中で席替えの機会があってもよかったかもしれません）。これからもぜひ、続けて下さい。
- ・ 多岐にわたるトピックに触れるヒューマンライブラリーに参加できたことは、非常に貴重な経験になったと思います。大変お世話になり、ありがとうございました。来年も、宜しく願い申し上げます。
- ・ 学生さんのボランティアスタッフの方々の一生懸命に案内する姿やサポートに、心が和んだ。先にも記入したが、貴重な本役の方のお話なので、人生を語るには質問含め30分では非常に短いと切に感じ、時間をもっと長く設けてじっくり語り手の話を聞きたいと思った。来年から時間に関しては考慮して頂くと更に良いものになると思います。
- ・ 特に問題なく、親切でした。

読者の感想文

1 2月2日のヒューマンライブラリーの感想

1 2月2日のヒューマンライブラリーに参加させていただいた感想としては、まず、このような活動は初めてです。知識や経験が得られる機会とはいえ、ただ普通に貴重な本物の本を読ませていただくのではなく、実際に各問題に関する知識や経験を持っている方々からのお話が聞けることがとても貴重な機械だと思い、この課外活動に参加しました。残念ながら、都合により1回目しか参加することができませんでした。それでも、非常に勉強になった30分でした。私が参加させていただいたのは金功熙さんの「変容する在日朝鮮人としての自己認識と他者との関係」という本です。金功熙さんは日本で生まれ、日本で育てられたのですが、祖父と祖母は韓国から来て、その祖父と祖母、両親も韓国の国籍を持っています。しかし、そのような家庭とはいえ金功熙さん自身は日本人の自覚を持ち韓国に関心が薄いため、特に韓国語や韓国に関する文化などを学んで来なかったとおっしゃいました。学生時代までの生活も差別の言葉やいじめられた経験もありましたが、普通に学生として学校生活を楽しんでいましたが、日本人としての自覚を持っていながら自分はどこか違うと感じました。例えば、16歳になった際に外国人登録書をしなければなりません。このような日本人にはしないことを自分はこの経験は自分を普通の日本人から浮いた気持ちにさせました。しかし、では自分は韓国人なのかという質問にも疑問にお思えたとおっしゃいました。例えば、韓国に行く際に日本で韓国人のパスポートを発行しなければいけない、または祖母が韓国語を話しているところを見て慣れない感じがしたという経験もありました。そのような目に見えないものが自分を縛っていると、自分は何者なのか分からないという悩みを抱えることになりました。大学時代、金功熙さんは自分と似た人たちと出会い、お互い似たような悩みを抱えていることがわかりました。その出会いをきっかけに金功熙さんはより自分を理解することができました。また、自分を理解することだけでなく、自分と似た状況を過ごしている友達も理解し、世界観が広まって、自分がいた世界はどれだけ狭いか理解し、その出会いがなければ今の自分はいなかったらうとおっしゃいました。私は金功熙さんのお話を聞いて、自分の状況と比べてなりません。私はタイで生まれ、タイで育てられましたが、私の祖父と祖母は中国人です。両親も中国語が話せますが、私と兄は中国語が話せません。必要がないとの理由で両親から教わっていなかったのです。しかし、タイでは私のような者が多く存在していますが、おそらく皆は自分はタイ人なのか中国人なのか悩まなく、はっきり自分はタイ人だと答えられると思います。完全に似ているとは言えませんが、金功熙さんの状況と少々似たものでも全然似ていないということに気づき、私は非常に驚きました。このような些細なことですが、自分とは違ってこの世界にはこのような状況を原因として苦しい思いを感じ、苦勞し、悩みを抱えている者が多くいると理解しました。今回のヒューマンライブラリーの課外活動は大事なことが学べた非常に貴重な機会です、参加して良かったと思います。

ヒューマンライブラリーの感想

ヒューマンライブラリーで読んだ『本』は、それぞれ私の思想に多くの影響を与えました。話の内容も日常的な経験に基づいていたため、わかりやすかったと思います。30分の話し合いで300ページの本に匹敵するほどの内容が得られたというのは、非常に効果的な経験でした。それによって、そのイベントがなぜ「ヒューマンライブラリー」と呼ばれるのかも理解できました。私が読んだ本についてそれぞれ具体的に書いてみたいと思います。

最初に読んだのは小山さんの本でした。小山さんがまず聞き手の希望を伺い、希望に基づいて話した姿勢は印象的でした。そして、小山さんが順々にうつ病になった経緯を伝えました。就職する時、実際は自分の希望どおりではなく、家族のおすすめどおりにしたそうです。従って、仕事は夢中にできなかったこと、残業が多す

きて生活が非常に大変だったことなどでどんどん気分が落ち、やり気がなくなった間に、心理学者との対話を通じて、自分がうつ病だと気づいたのは転機になりました。それで、うつ病になった人に対してどうやって反応すれば良いのか、またはうつ病との闘い方のアドバイス教順が有益的でした。

二番目は春子さんの話は結構悲しい内容でした。話の途中でブラジル人の平野さんを思い出しました。同感で、自分は中国人か日本人かをわからない状態だそうです。しかし、最も重要なのは、春子さんが家族のお世話もしながら、勉強も含めて、人生一生頑張ったことです。何回も気分が落ちて、もうやめたいと考えたこともあるでしょうが、彼女は諦めませんでした。またはこの話で、この前に中国人は日本人についてどう思っていたのか聞いて、びっくりしました。

三番目に聞いたのは中嶋さんの発表でした。自分の国に関する話なので興味深かったです。地震の直後に様々な国から色々な NGO が被害地に駆け付け、被災者を手助けしてくれました。もし彼らがいなかったら、状況はもっと困難だったと思います。具体的な例を通じて、こういう仕事をしている人たちに感謝の気持ちが湧きました。仕事は単なる給料だけではなく、確かに個人の満足感も大事です。

四番目の本は及川さんでした。及川さんにこの前に授業でもお世話になり、その経験が楽しく、再び聞いてみたいと思いました。一部では残念な面も感じるかもしれませんが、及川さんのような方を見ると、むしろ憧れの念が湧いてきます。実は残念思ったら失礼になる気がしました。電話での本人確認はできないこと、見たい映画は視聴できないことなど、ろう者が日常生活で直面している課題はまだありますが、これからますます改善されていくことを信じています。

最後の五番目は実は最も読みたい本でした。今若者として、自分の友達にでもゲイやバイセクシャルの方が結構います。しかし、これは、社会人の間であまり認められていないことで、友達のことが心配です。従って、もちろんゲイの人が自身の将来も心配です。ゲイの人に最もよく言われている反論は「家族」のことで。こういう考えかたを持っている人は人生を家族とつなげて、家族を子供とつなげているからです。りゅーやさんの話を聞いてみると、「家族は子供という意味じゃない」という意見が印象的でした。また、知り合いに自分はゲイだということを告白されたらどういう行動で反応すればいいのか教えてもらって、これから役に立つと思います。

それぞれの本を読んでもみると、ヒューマンライブラリーのみならず自分と同じ人間だと思いました。家族、将来、経済、宗教などのことを話し合ってみると、立場がもちろん違いますが、考え方がほとんど同じです。みんなの最も重要な希望は「人間が世界で一緒に平和で生きる」ことなんです。

2023 12/2 (土) 東京学芸大学ヒューマンライブラリー感想

今回の感想では、お二方のお話に焦点を当てて述べたいと思います。二人目の小山さんのお話では「うつ病」についてのお話を聞きました。聞く前に私は「うつ病というとはやはり悩みを自分の中に閉じこめてしまうものなのだろうか」と考えていました。小山さんによるとかなりアクティブに動く（小山さんは「人に会う」）ことで乗り越えたということを知り、「自分で自分を変える」ということのできる強い人間なのだと感じました。また、周囲の人からのうつ病の人への接し方について聞くことができたのは、非常に興味深かったです。「こうしてみなよ」ではなく、「こういう選択肢もあるよ」という声のかけ方をしてあげるといいと聞いて、今までは前者のような言い方になってしまっていたらと感じ、自分が教壇に立った際には悩んでいる子どもがいたときにはことばのかけ方に気を付けて接したいと思いました。四人目の浜田さんは、「失語症」についてのお話をしてくれました。私は、以前ドラマ「Dr. コトー診療所」で失語症になった方の様子を見たことがあり、ことばを出そうと思っても、声が出ないという「全失語」の症状を持っていました。浜田さんはこれとは違う「感覚性失語」であり、私の知っていたものとは違う種類でした。失語症になって言語の理解やことばのアウトプットが難しくなってからの言語の再習得には本当に大変な努力が必要だったと思います。そんな困難に負け

ずにこうして（紙芝居風に発表するなどの工夫をこらしながら）お話しいただけたことがとてもすごいと思いました。私は、今回の「ヒューマンライブラリー」という言葉を聞いて「人間が本になっているのって面白いな」と思いました。人のことを「本」というのはなかなか珍しいですから。単なる興味本位で参加したわけですが、そこで非常に考え方を「揺さぶられた」というか、はっとさせられました。最後のトークンタイムでも畑野とまとさんの「LGBTQ への差別の問題と外国人への差別とは外面的には違うものと思われがちだが、同じことである」ということをおっしゃっていたことには、胸を撃たれました。それは、差別に関する本質的なことだし、理解すべきことだと感じました。今回このイベントに参加して、新しい価値観に出会えて、物事をいろんな角度からみてみようとしてきていない自分に気づくことができました。また次の機会があれば、このヒューマンライブラリーに参加したいです。今回はお話しをいただいた皆さん、多くの気づきをありがとうございました。またお会いしましょう

今回初めてヒューマンライブラリーに参加して、驚くことがたくさんありました。はじめは紙の本を読むと思っていたから「生きている本」や「本の方」という言葉の意味が分かっていませんでしたが、対話の時間が始まって、すぐに理解しました。私は時間の都合で一冊の本しか読めませんでしたが、とても濃密で有意義な時間だったと感じます。

私はのりさんの「LGBTの一人親、子ども2人は不登校」を借りました。Xジェンダーの方のお話を直接聞くことはなかなかない機会なので、新鮮でした。私は今まで無意識的に性的マイノリティとそうでない人を二分化して考えていたところがありましたが、のりさんの人生経験を聞いて「性のあり方はグラデーション」という言葉を実感しました。私が今回驚かされたことはのりさんの考え方です。今までLGBT当事者が語る本をいくつか読んできましたが、その内容は周りの人とちがうことで日常の中で壁にぶつかった体験、そのとき辛かったことなどでした。しかし、のりさんにも辛いことや大変だったことがあったはずなのに、受け止め方が楽観的というか、まったく悩んでいないことが驚きでした。悩んでいる時間があつたら自分で調べて考えるとのりさんはおっしゃっていました。困難に直面してもそれに負けない強さがのりさんの素晴らしいところだと感じました。トランスジェンダーでありながら出産も経験されているのりさんですが、そのときもたくさん調べていたそうです。「病気じゃないのに病院で出産する必要があるのか」「切らないと赤ちゃんが出でこないのか」など、当たり前と疑念視しない人が多い中で調べて最善の解決策を見つけていく姿勢は自分も参考にしたいと思いました。

交流会の時間ものりさんとお話させていただきましたが、物事の考え方が理論的で、そこが男性的だと個人的に感じていました。愚痴を言ったり共感を求めたりする、感情的な部分が女性の多くにあつて、共感よりも答えを求める部分が男性の多くにあると自分は感じていて、男女で決めつけるのは良くないと思いますが、これまでの人生経験で感じた特徴になっています。考え方の違いによって女性の友達と話が噛み合わなくて困った経験があるそうです。Xジェンダーだから経験することですが、自分の新たな発見につながったので、面白いと感じました。

お子さんが不登校になったことについても、あっさりを受け入れていました。のりさん自身も学校があまり好きではなかったらしく、子どもが学校に行きたくないと言ったら「行きなさい」とは言わなかったそうです。ただ、フリースクールにはまだまだ課題点があつて保護者の負担も大きいこともおっしゃっていました。将来自分に子どもができたとき、子どもが学校に行きたくないと言ったらどう対応しようか考えさせられました。

私はLGBTにも不登校にも直感的に関心があつたのでこの本を選びましたが、実際に当事者の生の声を聞くことができ、本当に貴重な機会でした。今回お話を聞いて、もっと知りたいことがたくさんあつたので、調べてみたいと思います。今度はうつつ経験者の方のお話を聞きたいです。

ヒューマンライブラリーの感想

ヒューマンライブラリーという言葉は中国にいた時、聞いたこともないです。生の「本」を読むことは一体なんでしょう？そんな疑問を持って、今回の活動に参加しました。

一つ目の「本」はりゅーやさんでした。カミングアウトについて色々話してくれました。本当の自分の考えを伝えやすいようにほぼ転職先にカミングアウトしていることにとっても驚きました。中国ではそれはほぼ同僚に話してはいけないことです。その勇気に感心しながら、その考え方に非常に同感しました。別に友達じゃない同僚に自分のプライバシーを言わなくてもいいのに、やはりいつか本当の自分の考えを相手に伝えたい時が来るかもしれません。その時、嘘なく言い出せるように、最初から相手に自分の一部を見せると、私もそう思っています。本当の自分を隠して、ただ相手に合わせて本気ではないことを話すことはつらいとわかります。また、ジェンダーについてみんな話し合うことはただの少数派の生きづらさをわかるだけではなく、その人たちを通じて自分自身を考えることはできるとりゅーやさんがおっしゃいました。それこそその活動の主旨なのではないかと思えます。

二冊目の本はひらりさんでした。研究者としてのひらりさんからジェンダーについて専門知識を聞かせていただきました。特に、同性愛のトランスジェンダーのゲイとレズビアンは初めて聞きました。そこで、自己の中にある固定観念や偏見に気づきました。男性が女性を好むことはつい「普通」と言いましたが、それでは反対なのは異常ではないかとひらりに言われ、誰に対しても偏見はないと自分はそう信じていますが、いつのまに偏見のある言い方が身についたのかと自問し、多数派と少数派のような言い方にしようと思えます。

三冊目の本は小山さんでした。二、三年前、ある友達がうつ病になった。その時、うつ病に関してまったく知らなく、どうやって接するか困っていました。今回小山さんの話をいただき、あの時、あまり寄り添いすぎなかったことはよかったと思えました。うつ病は心理的な病だが、体にも現れることにショックでした。身体と心の二重の不具合と戦っている小山さんにとっても感服しました。特に、「思考より行動」という話しに深く同感しました。考えるほど迷い、それより、「とりあえずやる」ことで、未知の領域に挑戦する勇気を得ることができると思えます。

最後の「本」は長江さんでした。中国帰国者 2 世である長江さんは 13 歳に日本に戻ってから、生活が一変しました。それから、中国でも日本でも周りのいじめばかりうけました。中学生から大卒まで、何の関係もない、むしろ被害者とも言える長江さんがあの忌々しい戦争とつながって、責任を背負わされました。傷つけられながらも偏見の山に乗り越えていく長江さんの姿に感服しました。ですが、このような偏見の山今だに残っています。日本語教師の友達は学校で年上の同僚に「日本の鬼」と呼ばれたこともある。あの戦争で中日両国の人民がひどく傷つけられ、その傷跡は今でも残っています。あのような戦争を再発しないように、みんなが傷跡を覚えるわけで、決して両国の人民をお互いに恨み合うためではないと思えます。そのような無駄な恨みが消えるように、日本語教師として、多文化共生を宣伝し、頑張りたいと思えます。

今回の活動では、小学生の子供を連れた参加者も見られ、幅広い年代の人々がその活動に参加したと実感した。ヒューマンライブラリーは実に現代の社会のニーズに合致する意義ある存在だと思います。そのように多様性に対する関心がある人々、様々なサブカルチャーが共存できる社会を求めている人々がいると、多文化共生社会はいつか我々の目の前に現れると信じています。

ヒューマンライブラリー感想文 2023 年 12 月 02 日

12 月 02 日に多文化共修科目 B の課外活動として東京学芸大学のヒューマンライブラリーに参加することにな

り、大変教訓となる一日でした。私は最初から最後の交流会まで参加しましたが、本当に申し込んで良かったなと思いました。

中でも特に印象的だったのは1冊目の長江春子さん（中国帰国者2世）の「日本と中国の狭間に生きて」でした。紙芝居初めてで、話の流れがとても流暢で、すごく引き込まれた。私も中国の民国架空ドラマを観た時に思ったが、中国の19世紀を背景にするドラマに出てくる日本人は大体悪い役ばかりで、中国の子供が見たらどうなるだろうとずっと疑問を抱いていました。そして長江さんの話でその疑問が解けられたと同時に、悲しくなりました。確かに歴史関係で日本人が嫌いになることは仕方がないことがわかっているけど、長江さんのような中国残留日本人孤児の子供は中国でも日本でも自分の居場所を見つけることができないのは何より残酷なことなんです。しかし長江さんにあったことは社会の当然というか、どうしてもきっぱりに解決することができない現象だと分かって30分間の話を聞くうちに苦しくなりました。それこそ世の中に在日本のハーフの人たちもそうですし、先月に参加したブラジル人学校訪問の学生たちも多くの苦難に直面していることがより理解できました。

今回のヒューマンライブラリーを通じて、社会的な多様性を感じることもともに、日本社会の片隅についてさらに理解することができました。日本社会がますます多様化していく中で、異なる背景や経験を持つ人々とコミュニケーションを取ることで他者の物語を通じて新しい視点を得るだけでなく、自らの考え方や価値観を見つめ直す機会でもあり、より広い視野で社会と向き合うことができるのではないかと考えられます。世の中には自分の居場所を見つけたい、周囲から認められたい、人の役に立ちたいなど様々な立場やアイデンティティを持つ人たちは、まるで「本」のように読めば読むほど引き込まれるし、人の人生のようにどこで終わるのかは予想できないのが意味深い例えだと思います。

私の国のベトナムではヒューマンライブラリーというプログラムがありますが、主に行われるのは北部だけで、規模も小さいため、南部に在る私はこのようなプログラムがあることは知らなかったのです。世界観や価値観を育てるために非常に充実したプログラムなので、来年ベトナムに戻ったら積極的に支援しようと、あるいは私が先生になったらこのような活動を実行しようと心の中で誓います。

「本」のアンケート

今回の「本」としての自分の語りや読者の反応などについて感想をお書きください。

- ・ 初めて対面でさせていただき、交流会にも参加できて、有意義でした。学生さん達の運営もよかったです。
- ・ 4回ともスムーズに話すことができました。読者が一生けんめいメモとったり、うなずいたり、共感しながら聞いてくださったことが分かりました。前回の経験からかなり内容を削ったものの、日本語ノンネイティブもいらっしゃって、できるだけわかりやすく話そうと努めたこともあり、どうしても30分かかるなと思いました。そのため質疑応答の時間がほとんどなかったです。読者の感想を楽しみにしています。
- ・ 今回2回目の本役としての参加でした。スタッフの皆様、司書役の皆様のおかげで安心して話をすることができました。交流会も楽しかったです。
- ・ 今回初めて対面でお話しさせていただきました。オンラインの時は、自分の障害を言葉で説明するのが難しかったのですが、対面では実際に自分の障害をお見せしながら話す事が出来たので読者の方も理解しやすかったかと思います。また、対面の方が読者の方の反応も直に感じ取られたので良かったです。
- ・ 今年4月に転職してからというもの、正直色々悩みながら生活しており、話す内容がブレていると感じながら話していたこともあって、一通り話し終えた後は反省しきりでした。ただ、懇談会で「読者は完成形を求めているわけではなく、本役のリアルを聞きたい。それに本役をやるのはとても勇気がいるし、行動力がすごいと思う。話したことは必ず読者のためにも刺激にもなっている」とお言葉をいただき、とてもありがたかったのと勇気をいただけました。自分のやっていることも少しは役に立っていて、意義もあるのかなと思います。直せた次第です。本役をやると自分のいまの感覚や価値観、状態を再認識できるため、とてもありがたいです。今後もヒューマンライブラリーはライフワークとして継続していきたいと強く思いました。次回もぜひ参加させていただきたいです。参加したときに再度自分の状態を認識できることをいまから楽しみにしています。何卒よろしくお願い申し上げます。
- ・ 回答が遅くなりすいません。今回のHLは様々な事がありました。聞き手の方々の感想もとても興味深かったです。一番は学芸大の留学生が、お父様が脳出血で高次脳機能障害になってしまい、家族みんな心配している、帰れず心がつらいと、最後の最後に話してくれた事でした。もっと対話してあげたかったなあ、と思いました。スタッフの学生も知らなかった様子で、自分の本当のことをリアルで体験したからこそ、向こうも話してくれたのかな、と。ヒューマンライブラリーとは、こういう意味があるのか！と思いました。今までは二子玉川のHLにて話したり聞いたりしてきたのですが、学芸大で留学生や学生スタッフ達と対話をして、また新たな気持ちになりました。障がい者として医療・福祉に留まらず、社会と海外ともっと手を繋ぐことが重要だなとさらに感じました。

本ヒューマンライブラリーの運営（スタッフの対応、会場の環境など）に関して、ご意見がありましたらお書きください。

- ・ ①4回目は休憩タイムにうつの方の読者になりたいから場所教えてとスタッフにお願いしたのですが、本来の読者で混んでいるからと断られました。そういう訳で今回は一つもほかの本のお話が聞けずとても残念です。本同士の交流タイム、ぜひほしいと思いました。②今回は交通費について事前案内と当日説明がありませんでした。私は自転車まで往復したのでまったくかまいませんが、遠いところから来られた他の本の交通費も自腹だったのでしょうか。③本役の紹介のとき、読者のひとり（私のテーブルに座った方、今日のはじめて出会った読者）が長々と話されて、運営側が時間調整に困ったのではないかと思います。

- ・ お弁当をご用意いただいたのは大変ありがたかったのですが、揚げ物を控えていたので、おにぎり 2 個などで私はよかったです。贅沢言って申し訳ありません。
- ・ 先生、スタッフ皆様お世話になりました。また来年度も本役やその他にも関わりたいです。すごく細かい要望ですが、弁当がつかつかないかを先に連絡していただくと有難いです。

スタッフのアンケート

スタッフとしての仕事についての感想、反省などをお書きください。

- ・ 本の方と近い距離感でお話ができただけが良かったです。初対面の人同士が対話しやすかったり、居やすい場づくりはもっと考えていきたいと思いました。
- ・ いくみさんに本として参加してもらいたくて、頑張ってしまうました。ご本人からは楽しかったとお話を頂けたのでよかったです。本を誘う難しさ（強制してはいけないが強く推す）ことについていろいろ考えました。当日の準備など全く協力できず、すみませんでした。
- ・ 今年もお世話になりました。本の方々が、参加できてよかった、話す場があって嬉しいとみなさん話していらっしやっただけで、本当にこのイベントにスタッフとして関わってよかったと思いました。ただ、スタッフになると多くの本の方の話は聞けません。今年ほどの本の方も興味深く、来年は読者として参加してできるだけ本の方のお話を伺いたいとお見ました。また、日頃自分の人間関係の中では出会う機会の少ない人たちに出会えたことも貴重な体験となりました。ありがとうございました。
- ・ 時間管理が難しかった。読者のみなさんも聞きたいことがたくさんあり、話が盛り上がってくると時間のコントロールが難しくなってくる。
- ・ ヒューマンライブラリー自体も初参加な上に、スタッフをやるのも初めてだったので不安でいっぱいだった。去年を知らない状態でスタッフをやっても大丈夫かと思っていた。しかし、岡先生をはじめとして、スタッフを経験している先輩、ヒューマンライブラリーに参加したことがある先輩がやさしく、分かりやすく教えてくださったので、無事に役割を全うすることができた。スタッフの一員としてヒューマンライブラリーをつくり上げることができて光栄だった。来年もスタッフをやりたいと思った。そして、まずは 10 周年を目指してがんばっていききたい。
- ・ 私はヒューマンライブラリーに参加したのは 3 回目で、スタッフとして参加したのも 2 回目になります。私にとって、このようなイベントは非常に有意義です。このイベントに参加することにより、私は生きている社会にはさまざまな属性、背景を持つ人がいることを実感できることが最も重要な意義だと考えています。スタッフとして、読者よりも近距離で「本」の方と交流できることが一番の楽しみかもしれません。また、私はスタッフとして心がけていたことは、スタッフの仕事とタイムキーパーだけではなく、読者と本のコミュニケーションを促すことです。例えば、自分も読者として感想を述べたり、他の読者と交流したりもしました。特に、本の方の話を一方向的に聞くだけではなく、本の方にも私の感想と自身のことを話します。それこそが講義ではなく、交流になると思います。本の方にとっても、ここを一方向的に個人の経験、プライバシーまでについて発信する場ではなく、私はヒューマンライブラリー本当に他人と心を開いて話せる、共感できる場所になることを願っています。